

# “市民が考える総合計画”

## の策定に向けて

まちづくりの大きな指針であり宇土市の最上位計画である総合計画の策定について元松市長にインタビューを行いました。

宇土市の将来像についてお話を聞かせてください。

将来的なビジョンとして、労働世代の方々に宇土市に転入してきていただきたいと考えています。そのためには、もちろん雇用の場が必要になります。何千人も雇用が可能な企業の誘致を目指すのは現実的ではないと考えています。現実的には熊本都市圏のベッドタウン化が大きい部分を占めることになると思っています。そうなるためには、宇土市の魅力をもっとPRしていくかなければなりません。宇土市は人口が減少していますが、それは、宇土市の認知度が低い証ではないかと思っています。宇土市の魅力をPRし、認知度が上がれば、人口は必ず増加に転じると考えています。

宇土市にとって、人口の増加が最重要ということですか？

宇土市を人口が増えない自治体にしたくないということ。宇土市が魅力ある自治体になれば、地理的に絶対人口が減ることはありません。宇土市には7地区あり、現状として、花園地区は人口が増えています。宇土地区や走潟地区も減っています。宇土市の中でも熊本市に近い地区の人口が減っているため、このままでは、宇土市の人口が増える訳がありません。

宇土市の人口を増加させるための方策として、ベッドタウン化を考えた時に、どこからの転入者がターゲットとなるのですか？

熊本市に隣接する自治体を見たとき、宇土市を除きほとんどの自治体の人口が増えていきます。逆に、熊本市の人口は減っています。ここから、人口が熊本市に集中しながら熊本市の郊外に広がっていることが分かります。そのため、宇土市の人口が減少しているということはおかしな状況です。これからの時代は、自治体間競争の時代だと思っています。これまでの宇土市は宇城地域の中の宇土市でしたが、今後は、熊本都市圏の中の宇土市として、存在感を出すために、熊本市の周りの自治体と競っていくべきだと思います。県全体を見ると、熊本都市圏以外の自治体の人口が全部減っています。だから、熊本市の人口が減っているというよりも、県内の人口が熊本市周辺に集まってきていることが分かります。集まる段階で、宇土市以外の自治体を選択されているのですから、宇土市も選んでもらえるよう独自の政策も含めて競っていく必要があります。

県外や、県内の他の地域から熊本市の郊外に転入を希望される方には是非宇土市に住んでいただきたいということですか？

それが一番の目標で、そうなるためには、宇土市の魅力がもっと高まらないといけないし、今持っている魅力というものも、もっと伝えていかなければならないと思っています。今後、人口が増加する余地は十分にあると考えています。

総合計画策定にあたり“政策の大きな柱”をお持ちであれば、聞かせてください。



宇土市長  
元松 茂樹

目標には、もっと宇土市の人口を増やして、財政基盤の強化を図り、その他いろんな分野で宇土市を元気のあるまちにしたいというのがあります。そのために重要なことは、市民みんなで考えるということ。総合計画をみんなで作るといのは、そういう意味です。市長が宇土市を牽引していけばいいということではありません。

マニフェストの中にいろんな施策や事業を掲げました。当然それは何らかの形で実施していきますが、根底には、市民の皆さんが、みんなで考えて、やっていくっていうのが基本と考えています。みんな考えた結果、私がマニフェストに挙げているものより効果的になることがあれば、どんどん変えても構いません。一番重要なのは、市民が自分たちの問題として、自分たち自身で考え、まとめ上げていくという認識です。自分が考えていることが市政に活かされたという思いをする市民が増えてくれば、宇土市に対する愛着も増してくると思っています。

います。

総合計画も基本的には市民が考え、策定に参画するというのが柱ということですか？

そこが柱になると考えています。

総合計画の策定にあたっては、各地区で座談会を開催し、『宇土市をどういうまちにしたいか』『どういうまちにしたいか』という声を聞きながら、自分たちの住んでいる地区をどういうまちにしたいか』について、皆さんと語り、ご意見をいただいたと聞いています。市内の各地区はそれぞれ抱えている課題や目指す姿が違うはず。私は、そういう各地区の意見を捉え、総合計画に反映させていきたいと考えています。地区の課題や、目指す姿は、そこに住んでいる皆さんが一番分かっているはず。

「総合計画」は、市役所が作るものではなく、市民みんなで作るものだと考えています。